インバウンドの「変化の兆し」をいち早く

都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：6月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●7月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図 1 及び表 4)、**6 月の訪日外客総数(推計値)は 337 万 7,800 人**であった。前年同月比+7.6%と前月(同+21.5%)から縮小し、伸びは 1 桁にとどまった。**SNS による誤情報の影響もあり、香港からの訪日外客数が減少した影響**が表れた。また、同月の出国日本人数は 105 万 4,000 人であった(同+13.3%)。なお、2019 年同月比では-30.7%と、減少幅は前月(同-25.1%)から拡大。結果、**1-6 月累計の訪日外客数**は 2,151 万 8,100 人(前年同期比+21.0%)となり、**過去最速で 2,000 万人を超えた**。一方、同期の出国日本人数は 660 万 8,951 人(同+14.0%)であった。

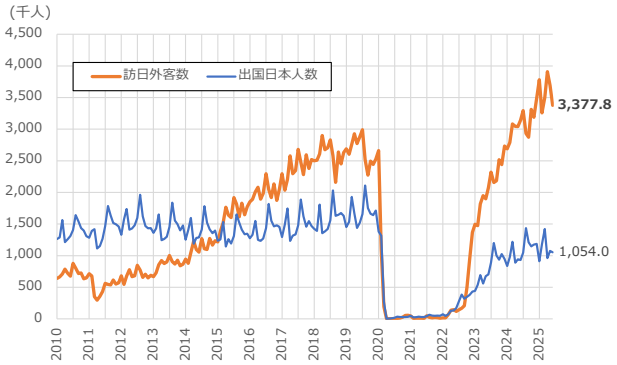
▶訪日外客数のトップ 5 を国・地域別にみると(図 2 及び表 4)、6 月は**中国が 79 万 7,900 人**(前年同月比+19.9%)**と最多**であった。次いで韓国が 72 万 9,800 人(同+3.8%)、台湾が 58 万 5,000 人(同+1.8%)、米国が 34 万 5,100 人(同+16.4%)、香港が 16 万 6,800 人(同-33.4%)と続く。**香港**は前述した誤情報の影響もあり、前月(同-11.2%)から**減少幅が拡大**した。

▶**目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば**(図 3 及び表 5)、**4 月は 390 万 9,128 人**(前年同月比+28.5%)。うち、**観光客は 358 万 7,187 人**(同+29.8%)となり、**過去最高値を更新**。その他客は 21 万 7,869 人(同+20.4%)、商用客は 10 万 4,072 人(同+5.5%)であった。

▶大阪・関西万博の累計一般来場者数(8 月 17 日時点)は 1,467 万 1,170 人となり、1,500 万人に迫る水準となった。万博閉幕(10 月 13 日)が近づく中、関西自治体は、来場者を自府県へ一層誘客するために積極的な施策を実施している。今回は、奈良県、和歌山県、徳島県、三重県、滋賀県に続き、**福井県の事例**を取り上げてみよう。

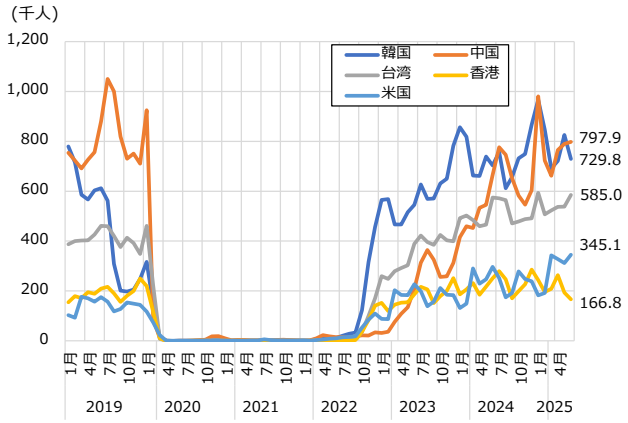
▶**福井県**では、**JR 西日本と連携しインバウンド向けの旅行商品を造成**している。具体的には、1）**個人向けのフリープラン**と 2）**エスコート付のツアーの旅行商品**が万博開幕期間中に販売されている(詳細は URL を参照 https://www.fuku-e.com/topics/detail_3147.html)。1）については、1 泊 2 日の旅程を通じて県の観光名所を自由に巡るプランであり、2) については、ガイド付きのツアーで、人気スポット(永平寺、恐竜博物館、レインボーライン山頂公園)とナイトコンテンツを楽しむプランである。特徴的なのは、大阪駅からの JR きっぷと県内での宿泊、観光、体験等がセットとなっていることである。これらの旅行商品によって、**大阪に集中している訪日外客を自県へ誘客することができれば、より一層地域の経済効果が高まることに繋がろう。**

図 1　訪日外客数及び出国日本人数の推移



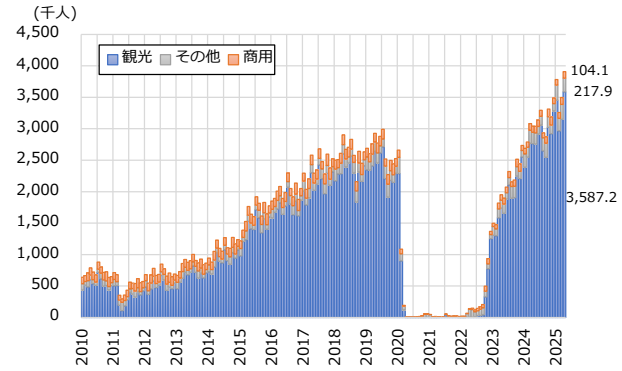
注：2023 年まで確定値、24 年、25 年 2 月は暫定値、25 年 3-4 月は推計値
出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図 2 上位 5 ヵ国・地域別訪日外客数の推移



注：なお、TOP5 の国・地域は値を表示している。

図 3　目的別訪日外客数推移



注：目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から 2 カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。
出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが 2023 年 9 月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待って今後再開する予定である。

トピックス 1

●6 月関西の財貨・サービス貿易及びサービス産業動向

▶関西 6 月の**輸出額**は前年同月比+1.4%と **9 カ月連続で増加**した(前月：同+0.8%)。また、**輸入額は**同+1.1%と 2 カ月ぶりの増加となった(前月：同-2.5%)。**関西の貿易収支**は+2,975 億円と **5 カ月連続の黒字となり、黒字幅は**同+2.9%と 2 カ月連続で**拡大**した(前月：同+50.3%%)(図 4)。結果、4-6 月期の貿易収支は+6,240 億円と 11 四半期連続の黒字となり、黒字幅は前年同期比+7.7%2 四半期ぶりに拡大した(1-3 月期：同-14.8%)。

▶対中貿易動向をみると(図 5)、**関西 6 月の対中輸出**は前年同月比-2.9%と **2 カ月連続で減少**した(前月：同-4.6%)。輸出減に寄与したのは半導体等製造装置や映像機器等であった。また、**対中輸入**は同-0.6%と 4 カ月ぶりの減少(前月：同+2.0%)。輸入減に寄与したのは通信機や金属製品等であった。4-6 月期の対中輸出は前年同期比+1.2%と 2 四半ぶりに増加(1-3 月期：同-1.1%)。また、対中輸入は同+9.5%と 4 四半期連続で増加した(1-3 月期:同+6.0%)。

▶**6 月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は 89 万 2,931 人**となり、**6 月として過去最高値を更新**した(前年同月比+9.9%)。**同月の日本人出国者数**は 19 万 4,766 人であった。**増加幅**(同+13.3%)**は前月**(同+15.6%)**から幾分縮小**した。なお、2019 年同月比では-34.1%となり、**アウトバウンド需要の回復ペースは依然低調**である。

▶サービス業の生産活動を示す**第 3 次産業活動指数**(季節調整済み：2019-20 年平均=100)をみれば(図 7)、6 月は 105.0 で前月比+0.5%と 3 カ月連続のプラスとなった(前月：同+0.3%)。このため経産省は基調判断を「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動き」と上方修正した。また、**対面型サービス業指数***は 106.6 で同+0.8%と、2 カ月連続のプラス(前月：同+0.9%)。うち、運輸業、郵便業(同+3.3%、2 カ月連続)や医療、福祉(同+0.5%、2 カ月ぶり)が上昇に寄与した。**4-6 月期の第 3 次産業活動指数**は前期比+0.4%、**2 四半期連続で上昇**した(1-3 月期：同+1.4%)。一方、**対面型サービス業指数**は同-0.5%、**3 四半期ぶりに低下**した(1-3 月期：同+1.8%)。

▶6 月の**観光関連指数****(季節調整済み：2019-20 年平均=100)は(図 7)、112.3 と前月比-1.2%低下し、2 カ月ぶりのマイナス(前月：同+3.0%)。うち、宿泊業、飲食サービス業(同-1.9%、2 カ月ぶり)や劇場・興行団(同-5.9%、2 カ月ぶり)が低下に寄与した。結果、4-6 月期の観光関連指数は前期比-1.8%、4 四半期ぶりに低下した(1-3 月期：同+3.5%)。

*対面型サービス業は、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「学習支援業」及び「医療、福祉」を指す。

**観光関連指数は第 3 次産業活動指数のうち、「旅客運送業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「旅行業」、「映画館」、「劇場・興行団」及び「公園、遊園地・テーマパーク」の各指数の加重平均。

図 4　関西 対世界貿易の推移

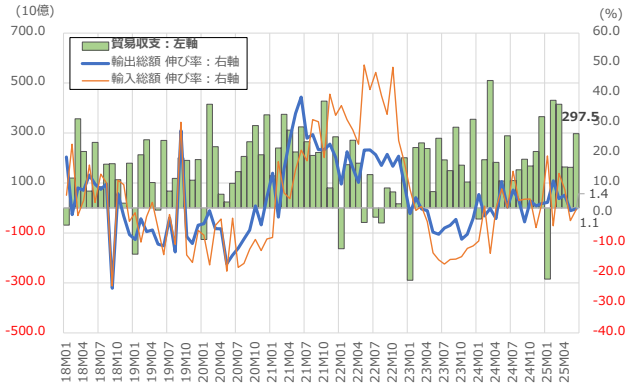
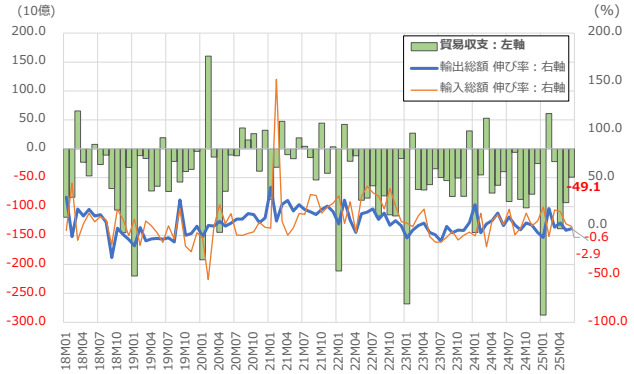
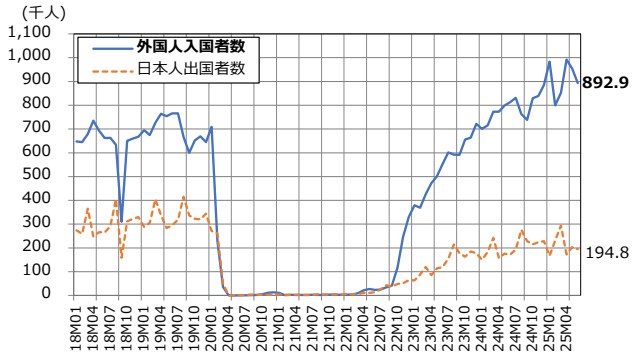


図 5 関西 対中貿易の推移



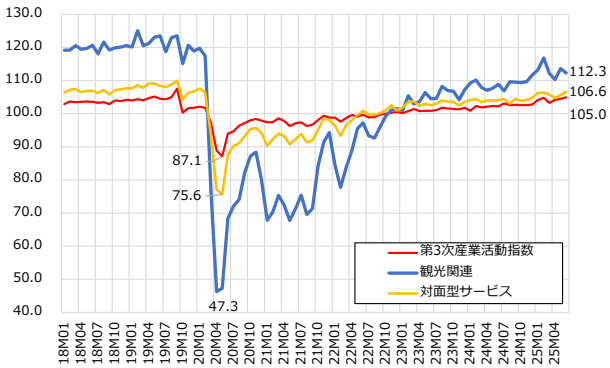
出所：「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」より筆者作成

図 6　関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。2025 年 6 月値は速報値

図 7　観光関連 対面型サービス 第 3 次産業:2019-20 年平均=100



出所：経済産業省「第 3 次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

●4 月延べ宿泊者数の動向：関西 2 府 8 県

▶観光庁によれば、**4 月の関西 2 府 8 県の延べ宿泊者数(全体)は 12,069.4 千人泊**であった(表 1)。**前年同月比+4.4%と** 2021 年 11 月以降プラスを記録し、増加幅は前月(同+4.0%)から小幅拡大。

▶**日本人延べ宿泊者数は 6,946.0 千人泊**となった。**前年同月比-4.4%と 2 カ月ぶりに減少**した(前月：同+2.1%)(表 1 及び図 8)。**府県別**に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,517.0 千人泊、兵庫県 1,091.1 千人泊、京都府 1,072.4 千人泊、三重県 683.1 千人泊、滋賀県 375.8 千人泊、福井県 309.2 千人泊、和歌山県 297.0 千人泊、奈良県 217.6 千人泊、徳島県 209.6 千人泊、鳥取県 173.4 千人泊であった。関西 4 月の前年同月比(-4.4%)に対する寄与度をみれば、**京都府**(同-4.1%ポイント)、**兵庫県**(同-0.7%ポイント)や**鳥取県**(同-0.7%ポイント)等、4 府県が減少に寄与した。特に京都府では 2025 年 1 月を除けば 23 年 9 月以降、2 桁減少が続いており、日本人宿泊者数は依然低迷している。一方、増加に寄与したのは、**福井県**(同+0.4%ポイント)、**奈良県**(同+0.3%ポイント)、**大阪府**(同+0.2%ポイント)等、6 府県であった。

▶**外国人延べ宿泊者数は 5,123.3 千人泊**となり、**過去最高値を更新**した(表 1 及び図 9)。**前年同月比+19.2%と 37 カ月連続のプラス**、**増加幅は前月**(同+8.2%)**から拡大**した。**府県別**に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,476.2 千人泊、京都府 2,144.4 千人泊、兵庫県 183.8 千人泊、和歌山県 97.6 千人泊、奈良県 62.8 千人泊、三重県 57.2 千人泊、滋賀県 43.4 千人泊、徳島県 27.3 千人泊、鳥取県 18.1 千人泊、福井県 12.6 千人泊であった。なお、**京都府、兵庫県、徳島県の延べ宿泊者数は単月過去最高値を更新**。前年同月比(+19.2%)への寄与度をみれば、**京都府**(同+9.6%ポイント)、**大阪府**(同+6.7%ポイント)、**兵庫県**(同+1.0%ポイント)等 **10 府県すべてで外国人延べ宿泊者の増加に寄与**した。

▶なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金：2019 年＝100)をみれば、2025 年 6 月は 70.5 となった。前年同月比-4.0%と 27 カ月連続の悪化。依然として日本人宿泊者にとっては厳しい状況が依然続いている(図 10)。

図 8　府県別日本人延べ宿泊者数 推移

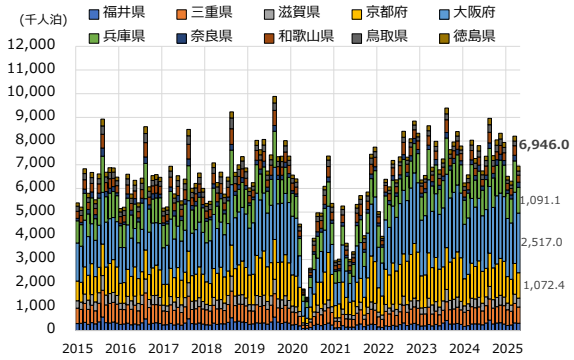


図 9　府県別外国人延べ宿泊者数の推移

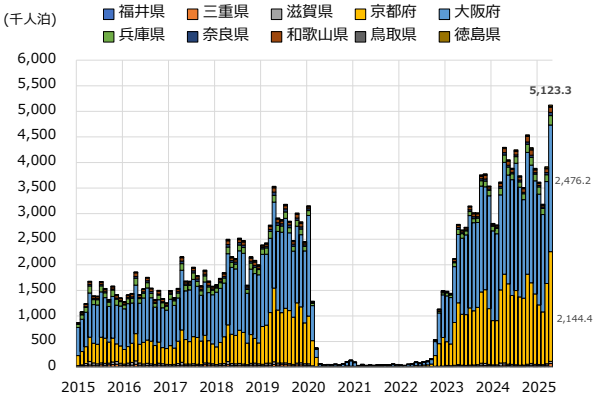
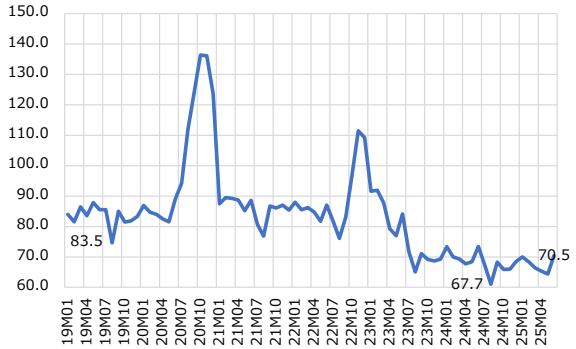


図 10　宿泊料金と賃金の交易条件

(現金給与総額/宿泊料金)



注：宿泊料金(消費者物価)と賃金(現金給与総額)の相対的関係をみている。
2019 年平均を 100。
出所：総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』

表 1　関西 延べ宿泊者数伸び率：4 月

2025年4月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数：(千人泊)	前年比伸び率：当月(%)	前年比伸び率：前月(%)	延べ宿泊者数：(千人泊)	前年比伸び率：当月(%)	前年比伸び率：前月(%)	延べ宿泊者数：(千人泊)	前年比伸び率：当月(%)	前年比伸び率：前月(%)
福井県	321.7	10.2	15.2	309.2	9.3	14.7	12.6	36.2	37.2
三重県	740.3	3.7	15.1	683.1	0.2	13.8	57.2	78.9	67.4
滋賀県	419.2	1.6	0.1	375.8	1.3	8.1	43.4	4.2	-49.8
京都府	3,216.9	3.7	-1.4	1,072.4	-21.7	-12.2	2,144.4	23.7	9.8
大阪府	4,993.1	6.4	8.9	2,517.0	0.5	9.9	2,476.2	13.2	7.4
兵庫県	1,274.9	-0.8	-6.6	1,091.1	-4.5	-7.3	183.8	28.6	0.6
奈良県	280.4	16.8	19.3	217.6	12.2	18.6	62.8	36.3	23.3
和歌山県	394.6	4.1	5.5	297.0	-1.1	2.0	97.6	23.9	30.0
鳥取県	191.5	-16.5	-13.1	173.4	-21.4	-14.6	18.1	108.2	20.9
徳島県	236.9	10.1	2.9	209.6	5.8	0.4	27.3	61.6	29.5
関西2府4県	10,579.0	4.6	3.3	5,570.9	-5.3	0.9	5,008.2	18.4	7.7
関西2府8県	**12,069.4**	**4.4**	**4.0**	**6,946.0**	**-4.4**	**2.1**	**5,123.3**	**19.2**	**8.2**
全国	53,045.2	2.2	0.7	35,757.3	-4.4	-3.4	17,288.0	19.2	14.1

注：表中の赤枠は寄与度が高い TOP3 を示している。

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(図 8～9 及び表 1)より筆者作成

トピックス 3

●2025 年 4-6 月期訪日外国人消費の動向

▶観光庁によれば、**2025 年 4-6 月期の訪日外国人消費額**(速報、全目的ベース)は **2 兆 5,250 億円**となり(図 11)、過去最高値を更新した(1-3 月期：2 兆 2,720 億円)。訪日外客数が着実に増加していることに加え、消費単価が 20 万円超の水準を維持していることが影響した。**前年同期比+18.0%**と正常化した 24 年以降をみれば **2 桁の伸び**が続いているが、**増加幅**は前期(同+28.4%)から**縮小**した。

▶4-6 月期の**訪日外国人消費のトップ 5** を国・地域別にみれば(図 12)、中国が 5,160 億円(前年同期比+16.7%)と最多であった。次いで、米国が 3,566 億円(同+28.2%)、台湾が 2,915 億円(同+10.5%)、韓国が 2,312 億円(同+3.6%)、香港が 1,358 億円(同-22.1%)と続く。**誤情報の影響を受けた香港は 2 四半期連続で減少**した。

▶**一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出**(全目的)は 2 万 5,350 円となり、前年同期比-9.7%減少した(1-3 月期：同+10.2%)。**24 年以降、初めてのマイナス**である。国・地域別にみれば、香港が 3 万 5,872 円(同-8.2%)と最も高い。次いで、米国が 3 万 678 円(同+5.3%)、シンガポールが 3 万 210 円(同-13.2%)、台湾が 3 万 115 円(同-13.6%)、中国が 3 万 13 円(同-9.8%)となっている(表 2)。コロナ禍以降、着実に上昇してきた消費単価だが、4-6 月期は多くの国・地域において減少しており、変化の兆しがみられる。

▶4-6 月期の **1 人 1 泊当たり旅行支出を費目別**でみれば(表 3)、宿泊費が 9,794 円(同+4.9%)と最も多く、次いで買物代が 6,579 円(同-23.5%)、飲食費が 5,347 円(同-13.1%)、交通費が 2,572 円(同-12.6%)、娯楽等サービス費が 1,034 円(同-1.2%)と続いている。宿泊費を除いて、すべての費目で減少がみられた。日銀大阪支店によれば、同期の百貨店免税売上高は前年同期比-38.2%減少し、買物代の減少幅と整合的である。なお、平均泊数は 9.4 泊と、前年同期差+0.9 泊増加した。

*トピックス 3 は四半期ごとの掲載である。

**「全目的」とは、観光・レジャー目的以外に、業務、留学、親族・知人訪問等の目的の旅行者を含む。ただし、1 年未満の滞在者が対象である。

図 11　訪日外国人消費額の推移

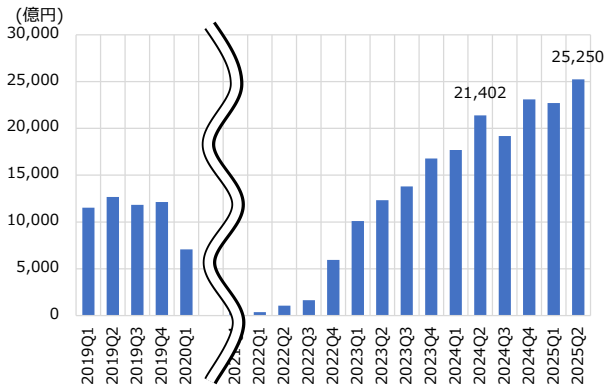
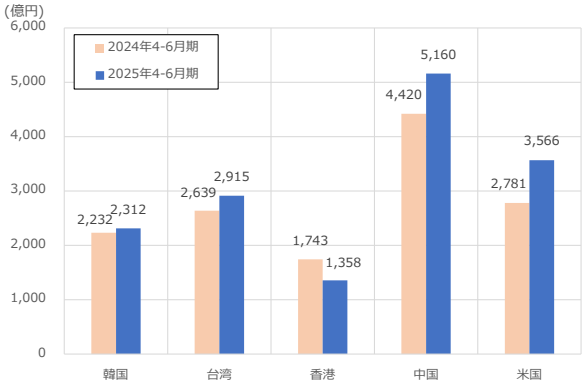


図 12　訪日外国人消費額の上位 5 か国・地域：2025 年 4-6 月期



注：「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加えビジネス目的や親族･知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。「クルーズ客」は船舶観光上陸許可者。2024 年までは確報、25 年 1-3 月期は速報。
出所:観光庁『インバウンド消費動向調査』より作成(図 11 も同様)

表 2　国・地域別一般客 1 人当たり旅行支出(全目的)：2025 年 4-6 月期

国・地域	全体	韓国	台湾	香港	中国	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	フィリピン	ベトナム
2024年4-6月期(円/人)	28,085	28,851	34,839	39,094	33,284	25,112	34,815	25,272	25,806	9,594	7,406
2025年4-6月期(円/人)	25,350	27,447	30,115	35,872	30,013	21,994	30,210	26,424	17,808	11,739	6,833
前年同期比(%)	-9.7	-4.9	-13.6	-8.2	-9.8	-12.4	-13.2	+4.6	-31.0	+22.4	-7.7
国・地域	**インド**	**英国**	**ドイツ**	**フランス**	**イタリア**	**スペイン**	**ロシア**	**米国**	**カナダ**	**オーストラリア**	**その他**
2024年4-6月期(円/人)	18,069	32,551	22,894	25,774	32,411	24,909	30,210	29,122	25,658	28,359	27,330
2025年4-6月期(円/人)	19,687	26,640	21,602	20,553	27,734	24,405	26,942	30,678	24,115	27,950	23,297
前年同期比(%)	+9.0	-18.2	-5.6	-20.3	-14.4	-2.0	-10.8	+5.3	-6.0	-1.4	-14.8

表 3　一般客 1 人 1 泊当たり旅行支出(全目的)：2025 年 4-6 月期

1 人 1 泊当たり旅行支出	総額	費目別						平均泊数(泊)
		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	その他	
2024年4-6月期(円/人)	28,085	9,332	6,155	2,943	1,046	8,601	8	8.5
2025年4-6月期(円/人)	25,350	9,794	5,347	2,572	1,034	6,579	25	9.4
前年同期比(%)	-9.7	+4.9	-13.1	-12.6	-1.2	-23.5	+198.5	+0.9

出所：観光庁『インバウンド消費動向調査』より作成。

表４　2025 年 6 月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数　Total			総数　Total		
	2024年 6月	2025年 6月	伸率（%）	2024年 1月～6月	2025年 1月～6月	伸率（%）
総数	3,140,642	3,377,800	7.6	17,782,422	21,518,100	21.0
総数(中国除く)	2,475,025	2,579,900	4.2	14,709,566	16,799,800	14.2
韓国	703,277	729,800	3.8	4,442,111	4,783,500	7.7
中国	665,617	797,900	19.9	3,072,856	4,718,300	53.5
台湾	574,487	585,000	1.8	2,979,197	3,284,700	10.3
香港	250,604	166,800	-33.4	1,276,107	1,271,100	-0.4
タイ	54,604	52,100	-4.6	618,310	680,500	10.1
シンガポール	58,925	68,600	16.4	300,027	345,200	15.1
マレーシア	22,042	28,100	27.5	241,797	323,900	34.0
インドネシア	43,052	51,500	19.6	263,822	336,000	27.4
フィリピン	65,011	63,200	-2.8	401,767	448,100	11.5
ベトナム	47,458	52,900	11.5	331,898	364,500	9.8
インド	19,884	28,600	43.8	121,893	171,100	40.4
豪州	61,817	59,400	-3.9	461,991	567,200	22.8
米国	296,414	345,100	16.4	1,342,935	1,701,300	26.7
カナダ	40,989	41,600	1.5	272,264	335,400	23.2
メキシコ	10,757	13,200	22.7	64,018	84,800	32.5
英国	28,828	33,500	16.2	218,491	271,000	24.0
フランス	23,150	27,100	17.1	184,325	209,700	13.8
ドイツ	16,603	23,900	43.9	157,645	202,800	28.6
イタリア	14,990	20,100	34.1	96,116	136,000	41.5
スペイン	12,907	18,200	41.0	65,935	98,300	49.1
ロシア	5,616	11,900	111.9	41,096	83,700	103.7
北欧地域	14,376	18,300	27.3	73,670	94,400	28.1
中東地域	14,086	17,400	23.5	75,238	115,700	53.8
その他	95,148	123,600	29.9	678,913	890,900	31.2

表５　2025 年 4 月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2024年 4月	2025年 4月	伸率(%)	2024年 4月	2025年 4月	伸率(%)	2024年 4月	2025年 4月	伸率(%)	2024年 4月	2025年 4月	伸率(%)
総数	3,043,003	3,909,128	28.5	2,763,384	3,587,187	29.8	98,685	104,072	5.5	180,934	217,869	20.4
韓国	661,259	721,672	9.1	632,616	691,647	9.3	15,614	15,101	-3.3	13,029	14,924	14.5
中国	533,611	765,189	43.4	456,835	677,319	48.3	23,139	25,499	10.2	53,637	62,371	16.3
台湾	459,723	537,638	16.9	446,403	523,015	17.2	7,271	7,622	4.8	6,049	7,001	15.7
香港	184,460	263,649	42.9	180,805	259,614	43.6	1,950	1,950	0.0	1,705	2,085	22.3
タイ	142,521	158,470	11.2	138,254	153,691	11.2	1,871	2,046	9.4	2,396	2,733	14.1
シンガポール	46,324	59,996	29.5	44,052	57,706	31.0	1,934	1,837	-5.0	338	453	34.0
マレーシア	45,983	51,159	11.3	43,626	48,393	10.9	1,228	1,255	2.2	1,129	1,511	33.8
インドネシア	62,515	61,380	-1.8	52,682	45,309	-14.0	811	985	21.5	9,022	15,086	67.2
フィリピン	68,499	90,973	32.8	59,330	77,616	30.8	4,318	7,207	66.9	4,851	6,150	26.8
ベトナム	61,607	64,089	4.0	25,035	27,276	9.0	2,811	3,005	6.9	33,761	33,808	0.1
インド	23,162	37,352	61.3	16,333	29,466	80.4	3,739	4,341	16.1	3,090	3,545	14.7
豪州	80,812	115,235	42.6	78,376	112,789	43.9	1,706	1,558	-8.7	730	888	21.6
米国	228,900	327,542	43.1	214,378	313,531	46.3	10,732	10,020	-6.6	3,790	3,991	5.3
カナダ	52,118	72,587	39.3	50,445	70,853	40.5	1,003	921	-8.2	670	813	21.3
メキシコ	11,786	21,793	84.9	11,380	21,385	87.9	228	180	-21.1	178	228	28.1
英国	48,407	69,496	43.6	44,004	65,856	49.7	2,749	1,982	-27.9	1,654	1,658	0.2
フランス	51,619	57,066	10.6	48,289	53,414	10.6	1,968	1,939	-1.5	1,362	1,713	25.8
ドイツ	36,029	57,188	58.7	32,425	54,158	67.0	2,899	2,229	-23.1	705	801	13.6
イタリア	24,855	45,592	83.4	23,191	43,701	88.4	1,072	1,175	9.6	592	716	20.9
ロシア	10,748	23,170	115.6	9,268	21,313	130.0	960	1,356	41.3	520	501	-3.7
スペイン	11,722	24,248	106.9	10,902	23,468	115.3	515	391	-24.1	305	389	27.5
中東地域	23,157	28,363	22.5	22,137	26,431	19.4	608	880	44.7	412	1,052	155.3
その他	173,186	255,281	47.4	122,618	189,236	54.3	9,559	10,593	10.8	41,009	55,452	35.2

注：目的別訪日外客数の定義については、図 3 注参照。
出所：日本政府観光局(JNTO)、2025 年 7 月 18 日付より筆者加工